

九十九博士

【概要】

深川の万能科学研究所という名のガラクタ置き場でロケットを作る研究をしている人。博士というよりは工場の親方と呼べそうな恰幅のいいヒゲ親父である。また女性の下着を言いあてる名人で、的中率は実に七割であると言う。研究はジュール・ヴェルヌの「月世界旅行」(1865)にでも触発されたのであろうか。史実では1957年にソ連がようやく世界初の人工衛星・スプートニク1号の打ち上げに成功しているので、九十九博士の挑戦はある意味無謀と言える。

だが時代は架空の大正20年、そして予想もつかぬ所からのハイテク知識による助力によって、博士の手作りロケットは宇宙を見る事に...!

そういや初の生物乗船ロケット・スプートニク2号には犬が乗ってたっけ(帰れなかった)。